

地域の経済動向調査

令和元年9月期調査

愛荘町商工会、稲枝商工会、豊郷町商工会、
甲良町商工会、多賀町商工会

I. 地域の経済動向調査について

地域の経済動向を把握し、「経営状況の分析」及び「事業計画策定」における基礎資料として活用することを目的として、地域の経済動向調査を実施し分析を行った。

外部データを分析した「滋賀県内の経済動向調査」と、地域内事業所巡回に独自に調査を行ったデータを分析した「彦愛犬地域内の経済動向調査」により、地域の経済動向を明らかにすることを目指した。

使用数値はD I（ディフュージョン・インデックス）とし、増加（上昇・好転・過剰）企業割合から減少（低下・悪化・不足）企業割合を差し引いた値を基本とするが、一部設備投資については実施企業割合とした。

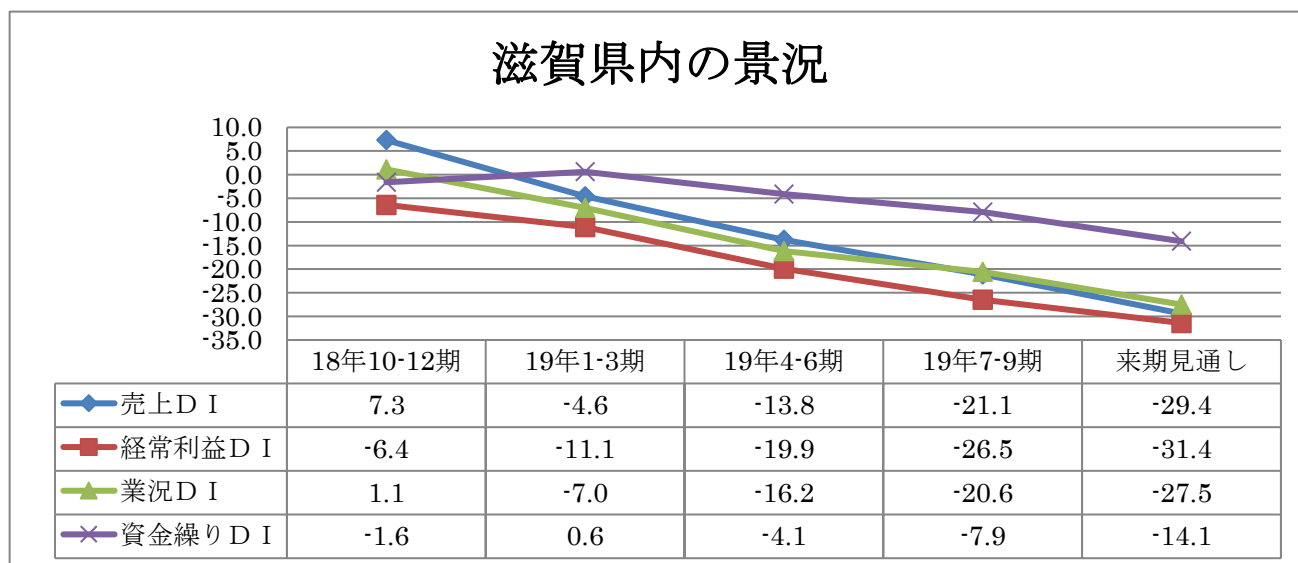
II. 滋賀県内の経済動向調査 - 2019年9月期 -

1. 調査内容

滋賀県内の経済動向として、公表されている以下の外部データを使用し分析を行った。

- ・滋賀県景況調査結果報告書（2019年4月～6月期） 滋賀県商工観光労働部商工政策課
- ・滋賀県景況調査結果報告書（2019年7月～9月期） 滋賀県商工観光労働部商工政策課
- ・滋賀県内企業動向調査 2019年4～6月期（株）しがぎん経済文化センター
- ・滋賀県内企業動向調査 2019年7～9月期（株）しがぎん経済文化センター
- ・中小企業景況調査報告書 2019年4～6月実績 2019年7～9月予測 滋賀県商工会連合会
- ・中小企業景況調査報告書 2019年4～6月実績 2019年7～9月予測 滋賀県商工会連合会

2. 滋賀県内の景況（全業種）

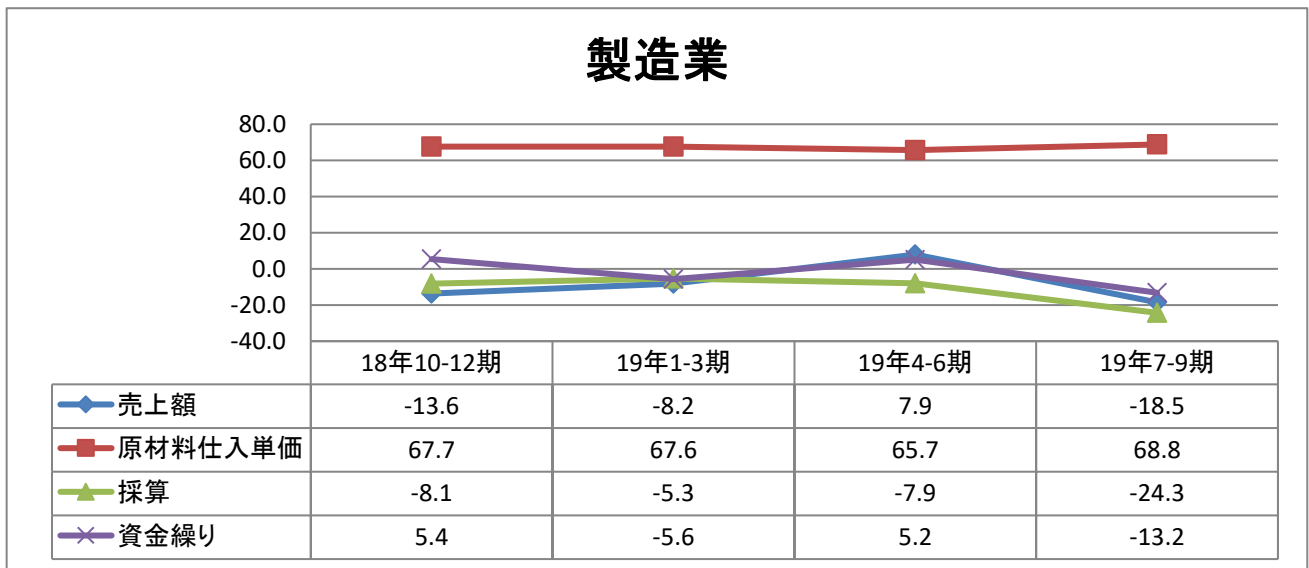


（出典：滋賀県景況調査結果報告書 滋賀県商工観光労働部商工政策課）

・業況D I、生産D I、売上D I は前期に比べマイナス幅が拡大、来期は、今期に比べマイナス幅が拡大する予定である。

3. 業種別景況

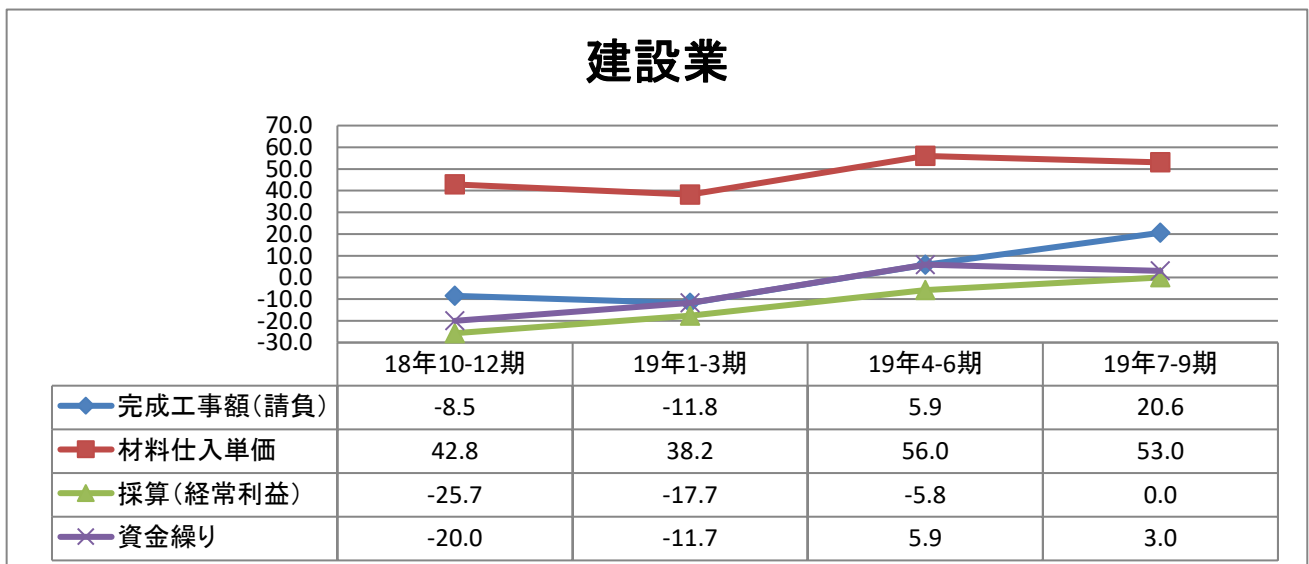
①製造業



(出典：中小企業景況調査 滋賀県商工会連合会)

売上額は、前年同期に比べて、増加企業が 26.3%に対し、減少企業が 44.8%で減少企業が 18.5 ポイント上回っている。採算の状況は、好転企業が 13.5%に対し、悪化企業が 37.8%で 24.3 ポイント上回っている。

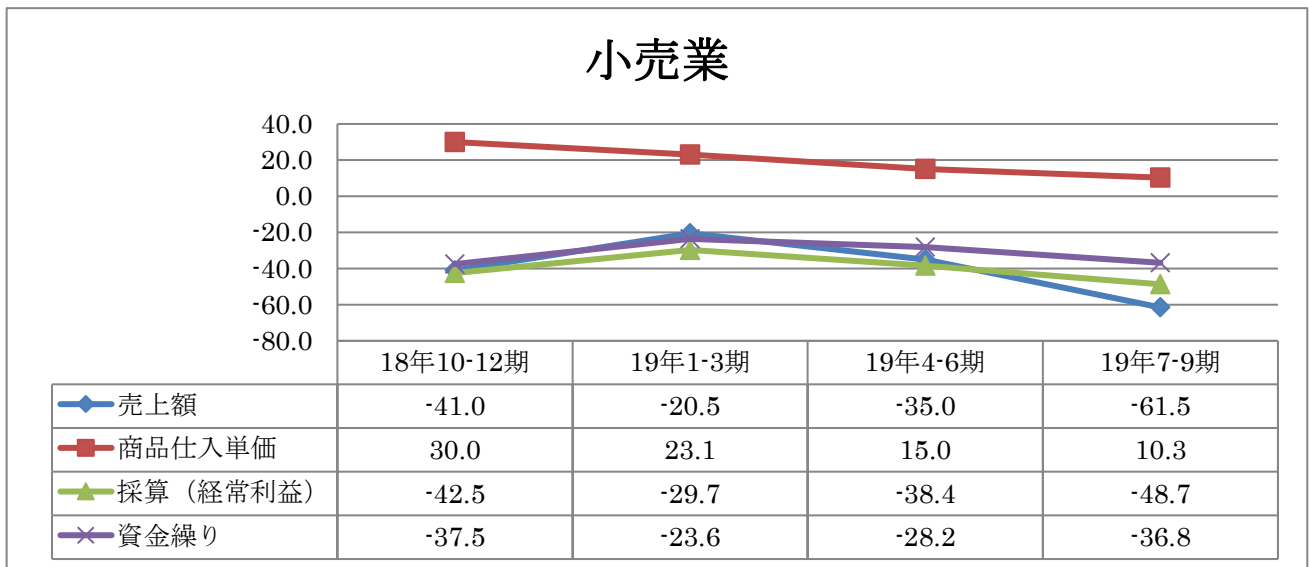
②建設業



(出典：中小企業景況調査 滋賀県商工会連合会)

完成工事額は、前年同期に比べて、増加企業 35.3%に対して、減少企業が 14.7%で増加企業が 20.6 ポイント上回っている。採算の状況は、前年同期に比べて、好転企業と悪化企業が 18.2%で同じであった。

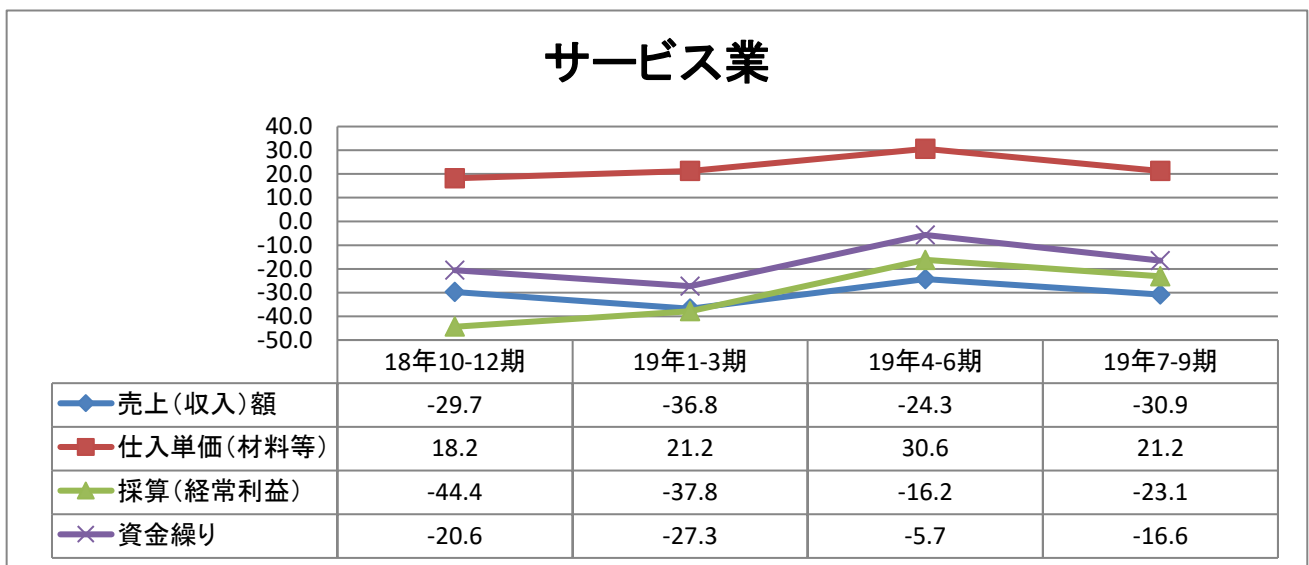
③小売業



（出典：中小企業景況調査 滋賀県商工会連合会）

売上額は、前年同期に比べて、増加企業が 10.3%に対し、減少企業が 71.8 %で 61.5 ポイント上回っている。採算の状況は、前年同期に比べて、好転企業が 5.4%に対し、悪化企業 54.1%で 48.7 ポイント上回っている。

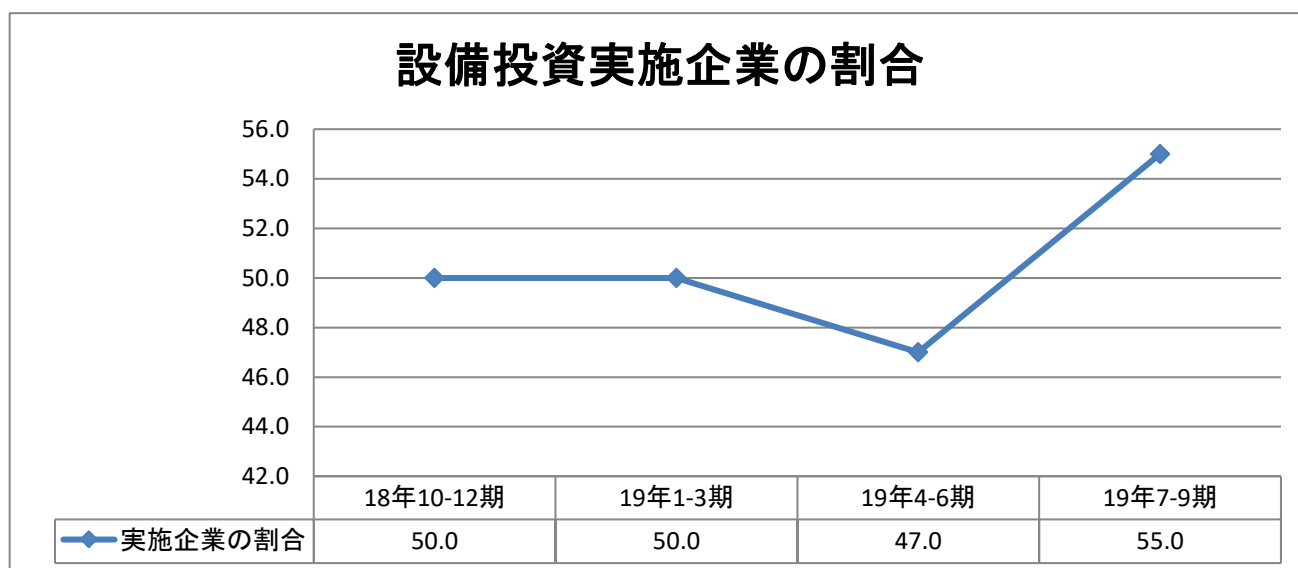
④サービス業



（出典：中小企業景況調査 滋賀県商工会連合会）

売上額は、前年同期に比べて、増加企業が 17.9%に対し、減少企業が 48.8%で減少企業が 30.9 ポイント上回っている。採算の状況は、前年同期に比べて、好転企業が 5.1%に対し、悪化企業が 28.2%で 23.1 ポイント上回っている。

4. 設備投資の実施状況



	18年10-12期	19年1-3期	19年4-6期	19年7-9期
製造業	50.0	50.0	49.0	56.0
非製造業	46.0	47.0	46.0	54.0

	18年10-12期	19年1-3期	19年4-6期	19年7-9期
建設業	37.0	43.0	45.0	62.0
卸売業	52.0	38.0	41.0	55.0
小売業	48.0	44.0	33.0	50.0
サービス業	48.0	69.0	61.0	59.0

(出典：滋賀県内企業動向調査 (株)しがぎん経済文化センター)

設備投資の実施割合は、製造業、非製造業とも50%を越えた。特に、建設業において投資意欲が高い。

Ⅲ. 彦愛犬地域内の経済動向調査 —令和元年9月期—

1. 調査内容

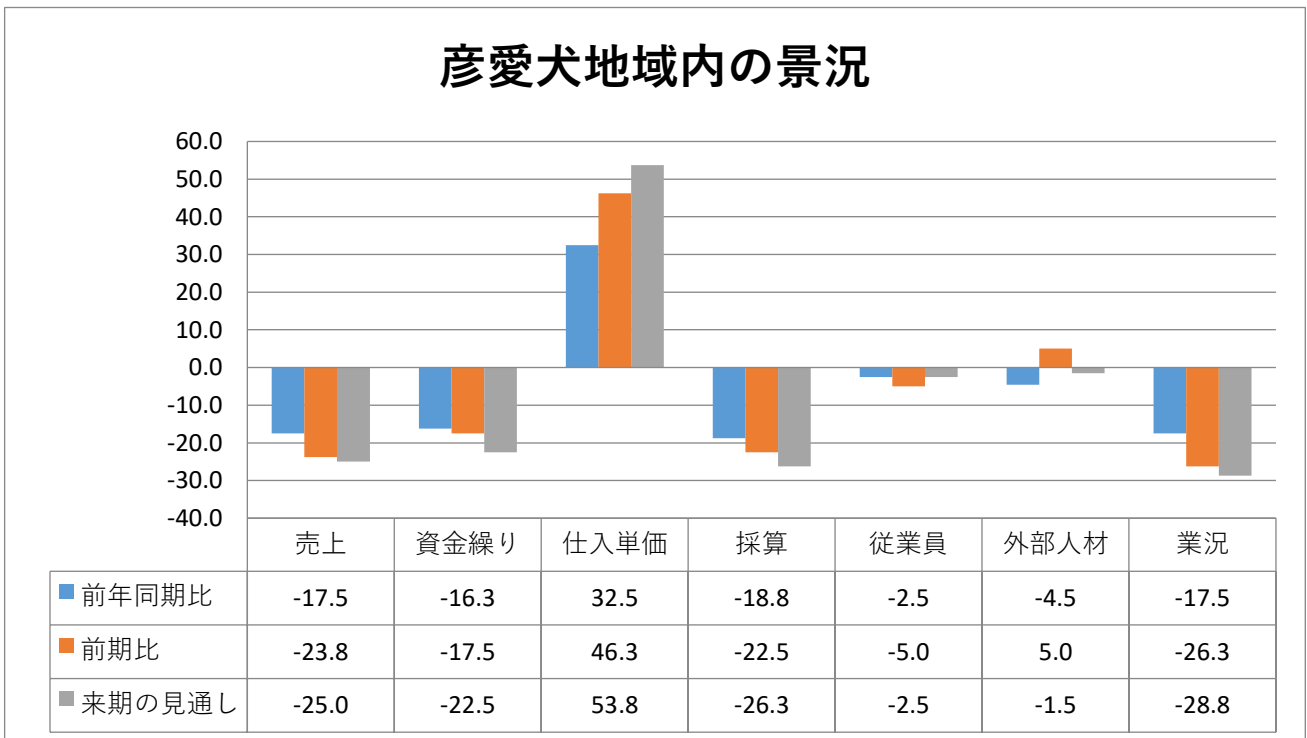
令和元年度10月に、地域内各業種の事業所を業種別に抽出し、令和元年度第前期の業況についてアンケート形式での調査を実施した。回答を得た事業所数は80社であり、地域の小規模事業者の4.7%に該当する。業種別の回答事業者数は以下の通り。

業種別回答事業者数

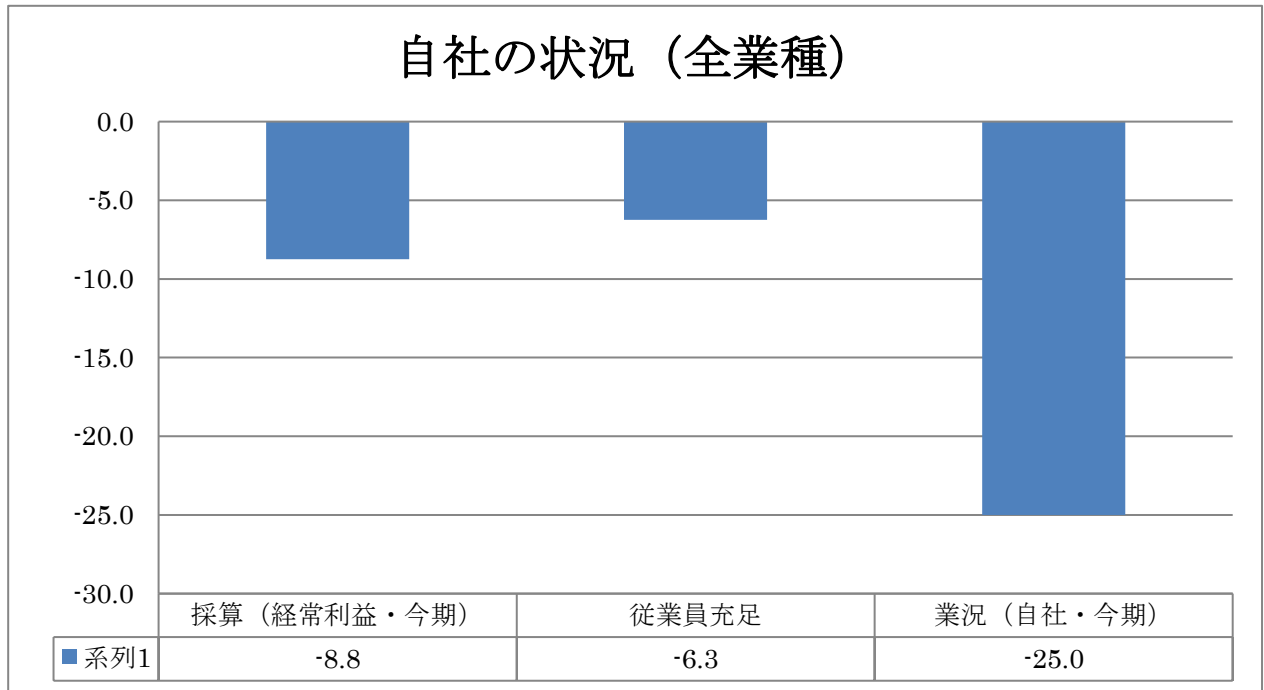
業種	事業所数
小売業	18
サービス業	20
建設業	18
製造業	17
卸売業	7
合計	80

2. 彦愛犬地域内の景況（全業種）

※ 前年同期（平成30年4月～平成30年9月）に比べて
 前期（平成30年10月～平成31年3月）に比べて
 今期後期（令和元年9月～令和2年3月）の見通し



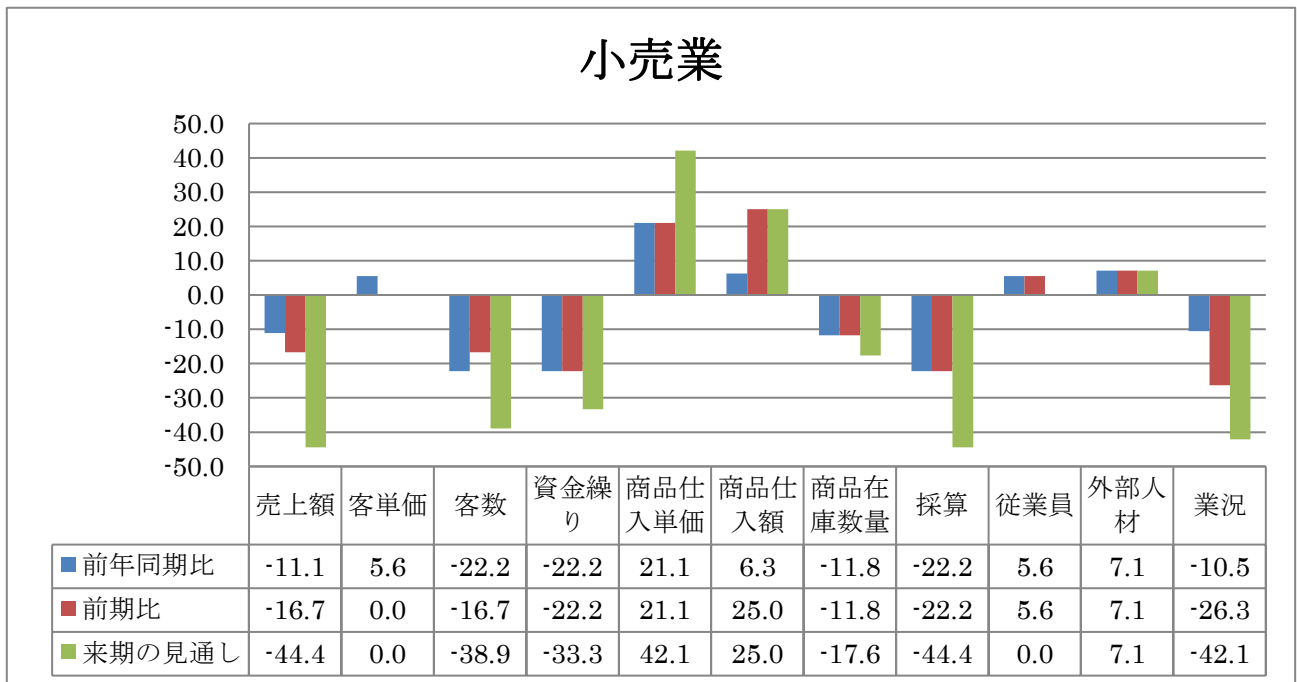
売上、資金繰り、採算、業況とも前年同期と比較し悪化傾向にあり依然低水準である。仕入単価については増加傾向にある。



従業員数の不足を感じている事業者は12.7ポイント増で改善。業況についても5.5ポイント増となったが、採算（経常利益）については、前年同期との比較から-23ポイントとなり厳しい状況がうかがえる。

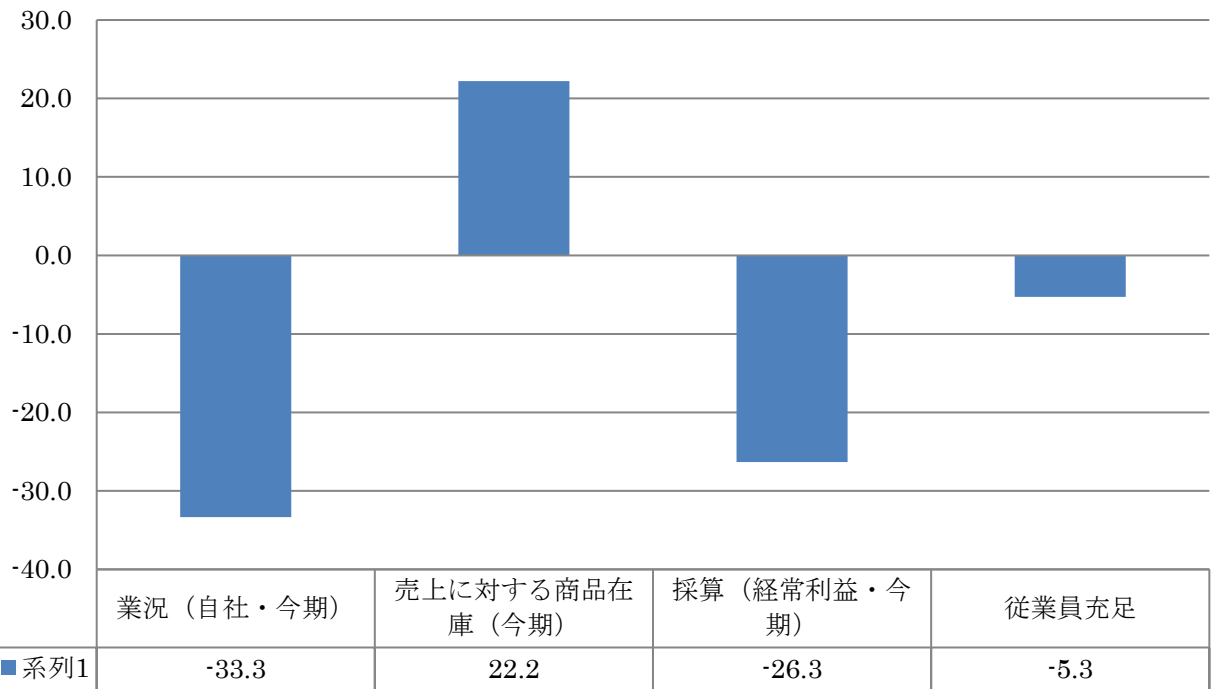
3. 業種別景況

① 小売業



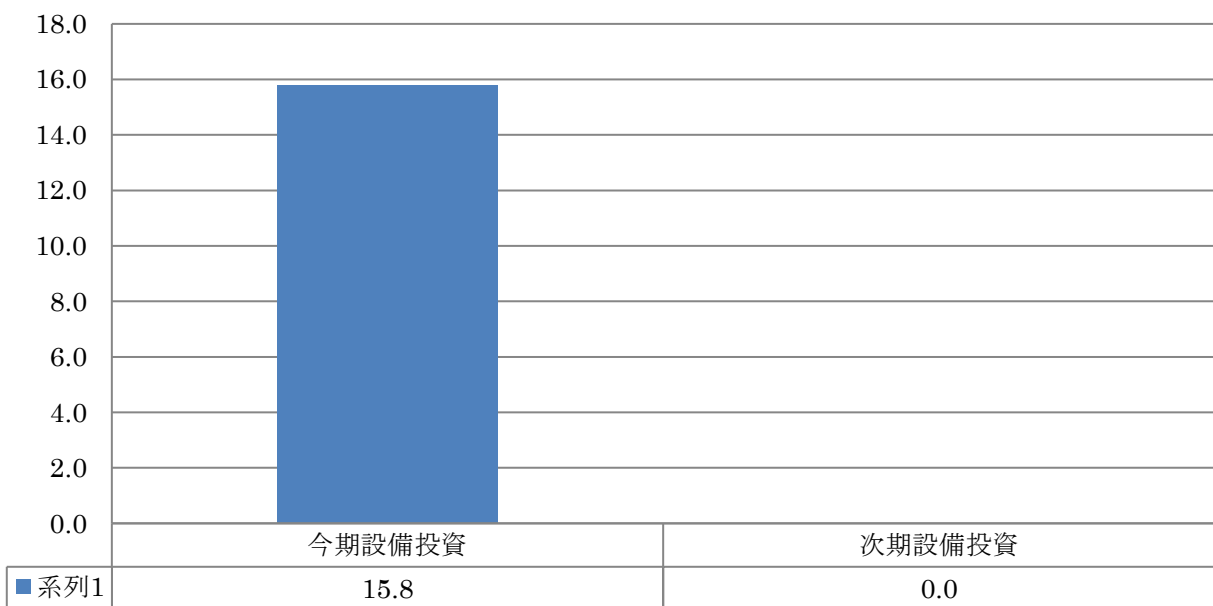
売上、採算、業況については依然、他業種に比べ大きくマイナス領域にある。今後の見通しについては資金繰り面で一層の厳しさが予想される。

自社の状況（小売業）



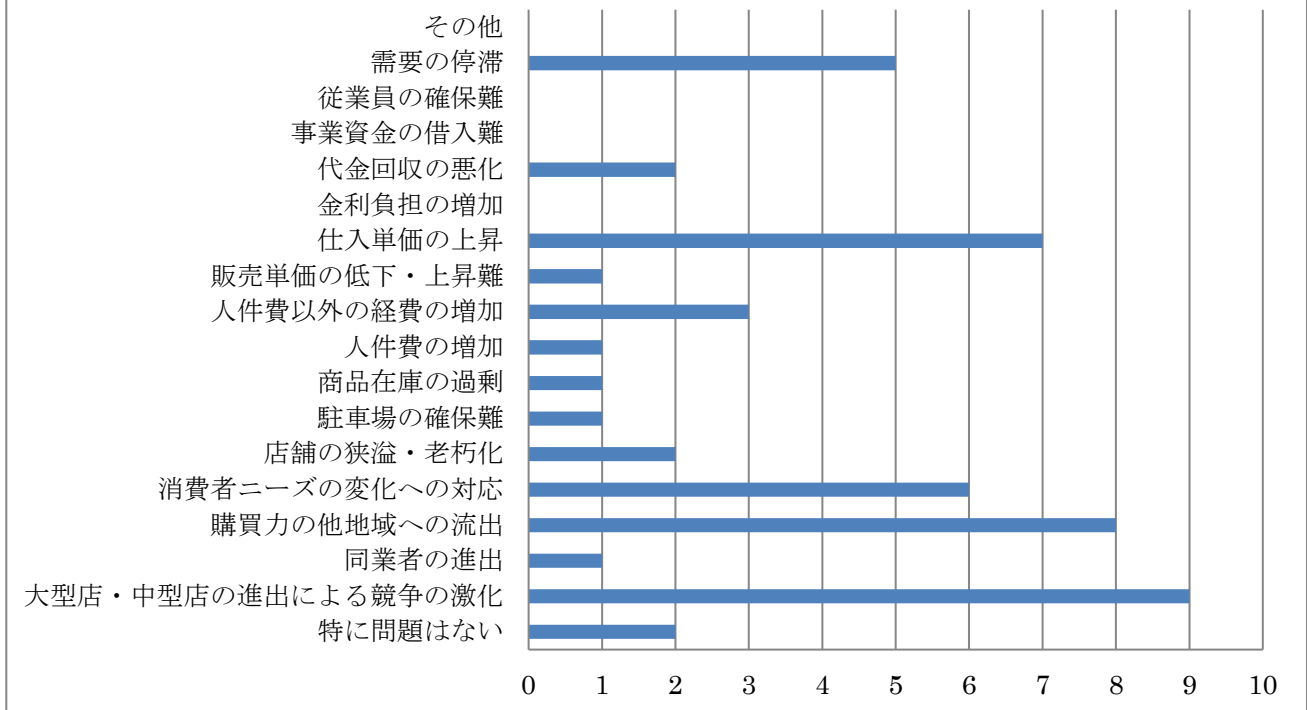
業況については他業種と比べて大きくマイナスにある。採算は前期より-15.2ポイントとなり悪化している。商品在庫に於いては6.9ポイント増となり、過剰感がさらに強まっている。従業員の不足感は改善されている。

設備投資実施率（小売業）



設備投資実施事業者は前回の調査から大幅に増加しているが、次期については設備投資を予定すると回答した事業所はなかった。

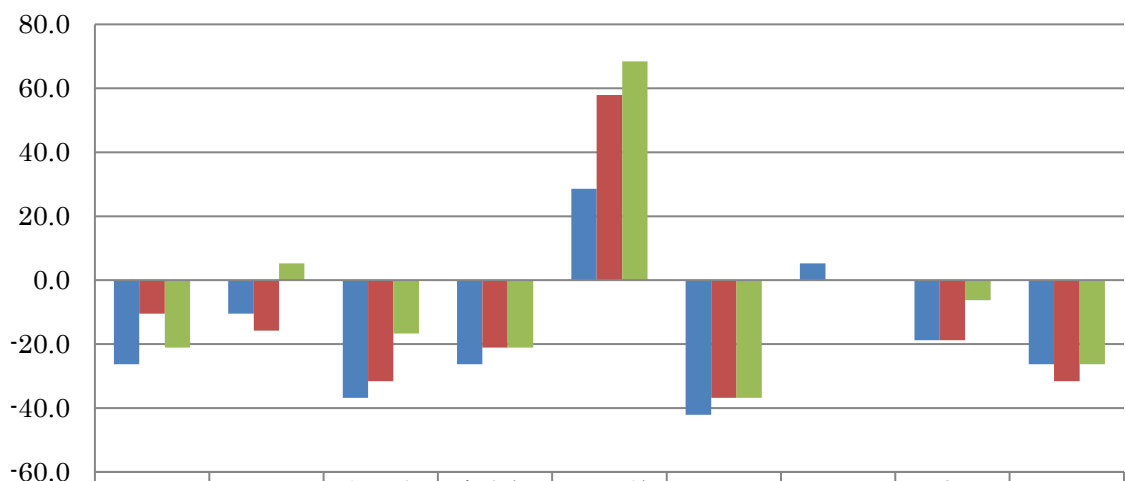
経営上の問題点（小売業）



経営上の問題点の第1位は「大型店・中型店の進出による競争激化」、第2位は「購買力の他地域への流出」、第3位は「仕入単価の上昇」であった。

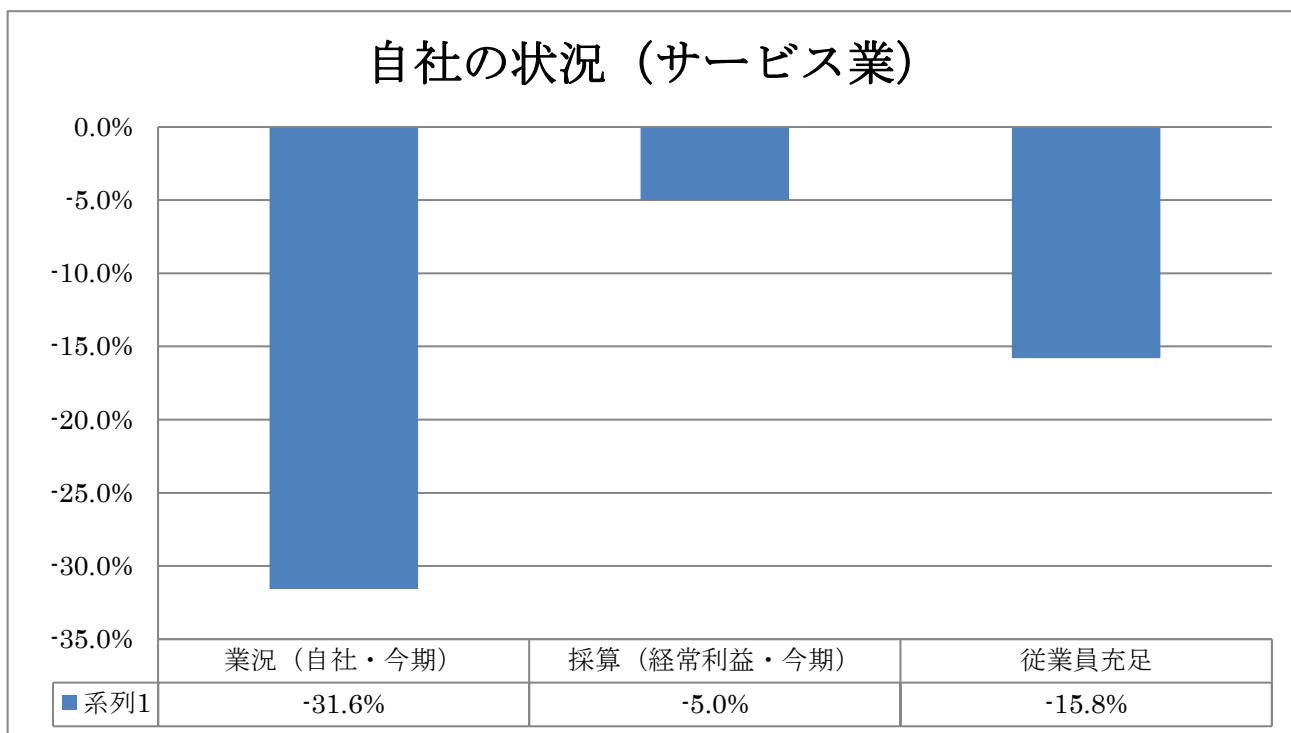
② サービス業

サービス業

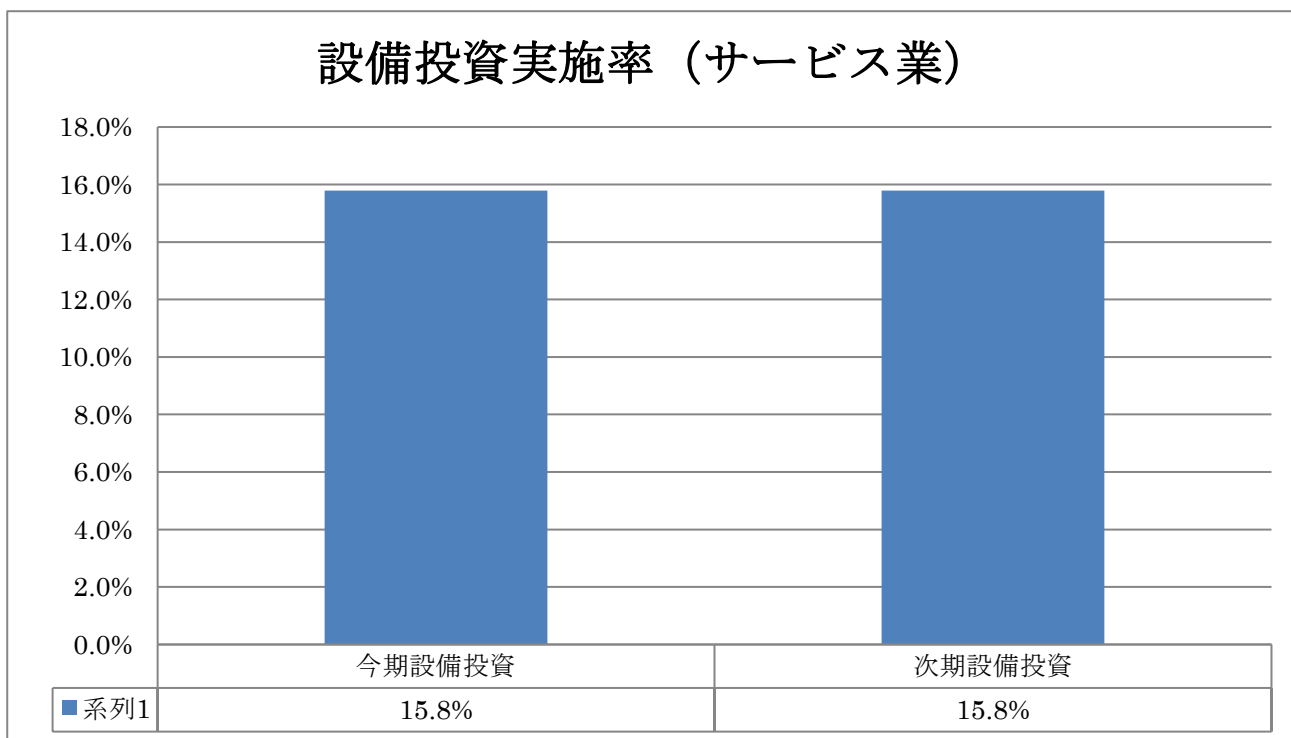


	売上額	客単価	利用客数	資金繰り	仕入単価	採算	従業員	外部人材	業況
■ 前年同期比	-26.3	-10.5	-36.8	-26.3	28.6	-42.1	5.3	-18.8	-26.3
■ 前期比	-10.5	-15.8	-31.6	-21.1	57.9	-36.8	0.0	-18.8	-31.6
■ 来期の見通し	-21.1	5.3	-16.7	-21.1	68.4	-36.8	0.0	-6.3	-26.3

売上及び利用客数、資金繰りにおいては前回調査同様マイナスで推移。材料等の仕入単価の上昇が前回調査よりさらに増加し、他業種と比較して抜きんでて高水準にある。採算、は前回調査に比べマイナスポイントが増加とさらに悪化。業況もマイナス傾向が続いている。

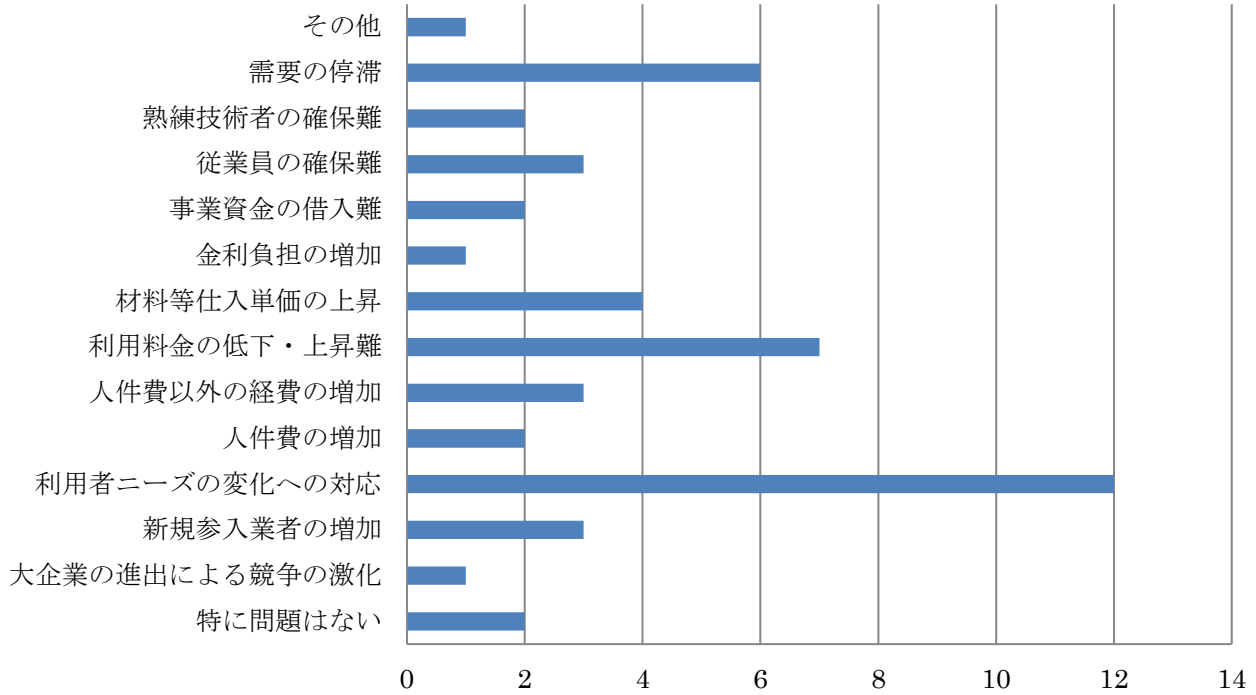


前回調査と比べ、業況は 1.6 ポイント減少、採算は 5 ポイント減少、従業員は 0.8 ポイント減少と悪化傾向にある。



設備投資を実施した事業者は横ばい。今後設備投資を計画している事業所は前回調査より 4.2 ポイント減少した。

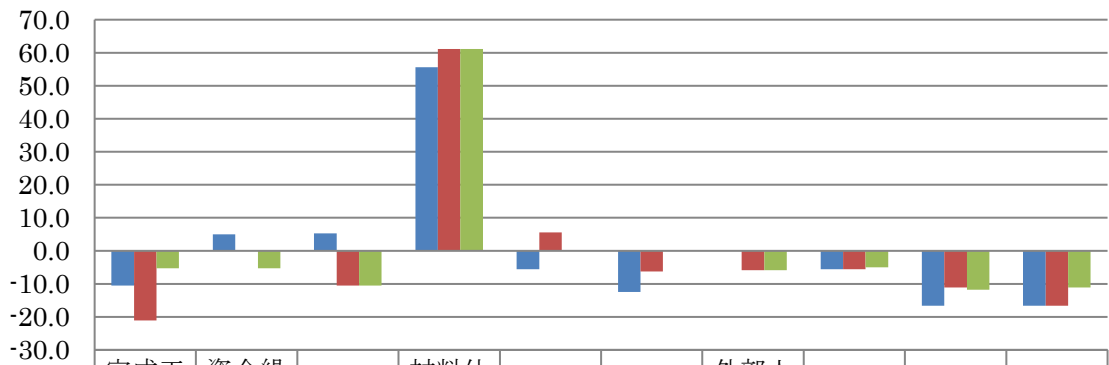
経営上の問題（サービス業）



経営上の問題点1位は「利用者ニーズの変化への対応」で、第2位に「利用料金の低下・上昇難」が続く。

③ 建設業

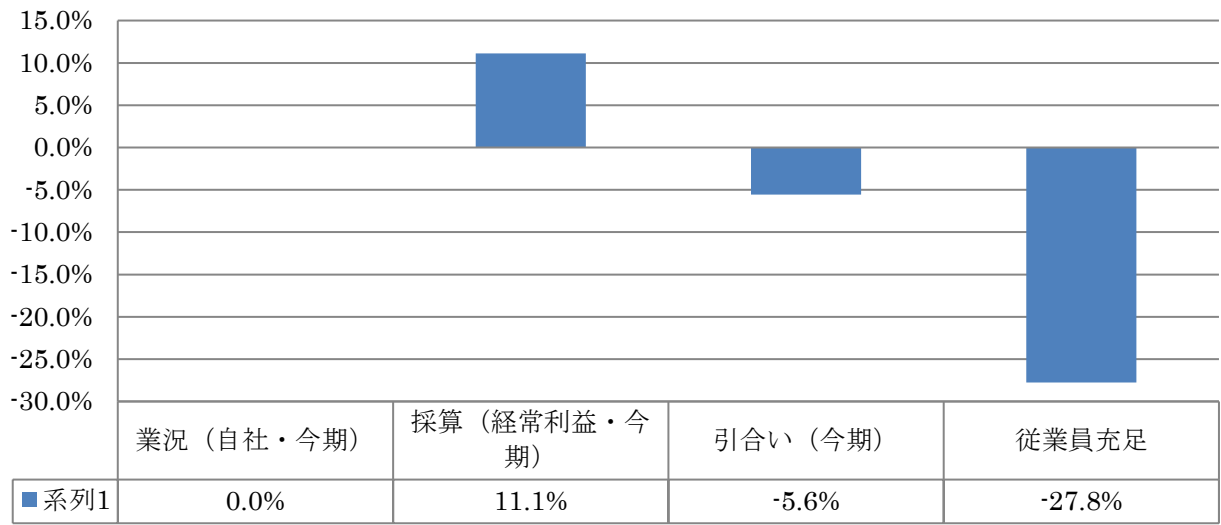
建設業



	完成工 事高	資金繰 り	受注額	材料仕 入単価	採算	従業員	外部人 材	業況	引合い	契約残
■ 前年同期比	-10.5	5.0	5.3	55.6	-5.6	-12.5	0.0	-5.6	-16.7	-16.7
■ 前期比	-21.1	0.0	-10.5	61.1	5.6	-6.3	-5.9	-5.6	-11.1	-16.7
■ 来期の見通し	-5.3	-5.3	-10.5	61.1	0.0	0.0	-5.9	-5.0	-11.8	-11.1

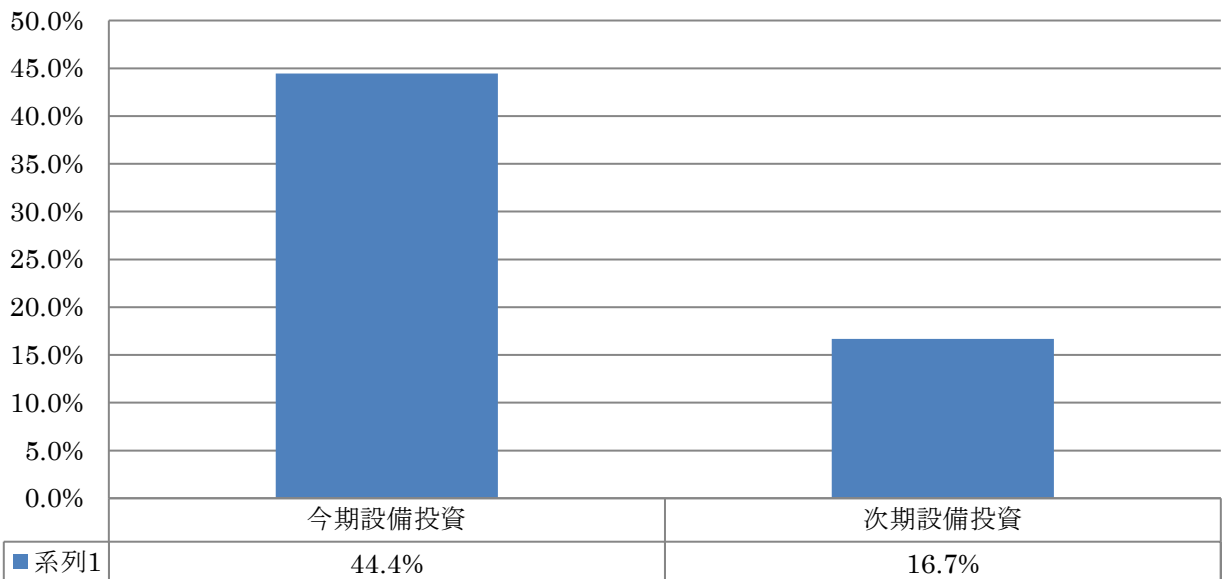
完成工事高は減少、材料仕入単価は上昇傾向にある。引合い、契約残については、ほぼ横ばいで推移している。

自社の状況（建設業）



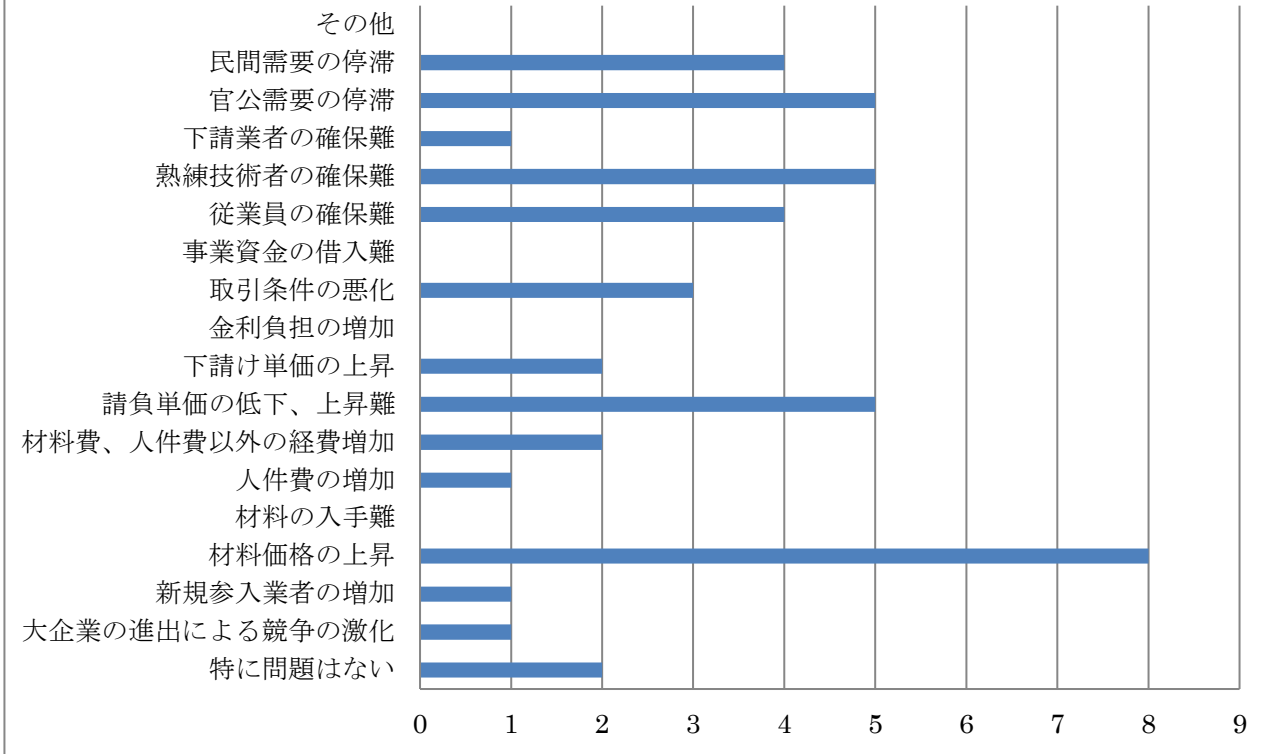
業況、採算、引合いの全てにおいて前回調査より、悪化傾向にある。

設備投資実施率（建設業）



前回調査より、今期設備投資を実施した事業所は増加したが、次期の設備投資においては消極的である。

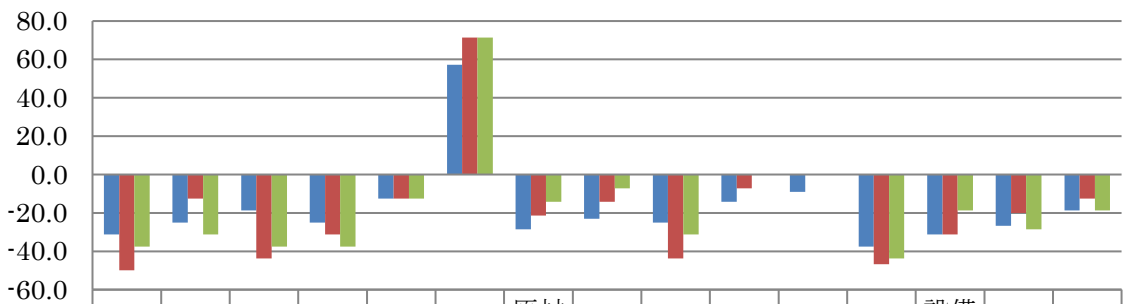
経営上の問題（建設業）



経営上の問題点第1位は「材料価格の上昇」、第2位は「官公需要の停滞」、「熟練技術者の確保難」、「従業員の確保難」、「請負単価の低下・上昇難」が同数で並んでいる。

④ 製造業

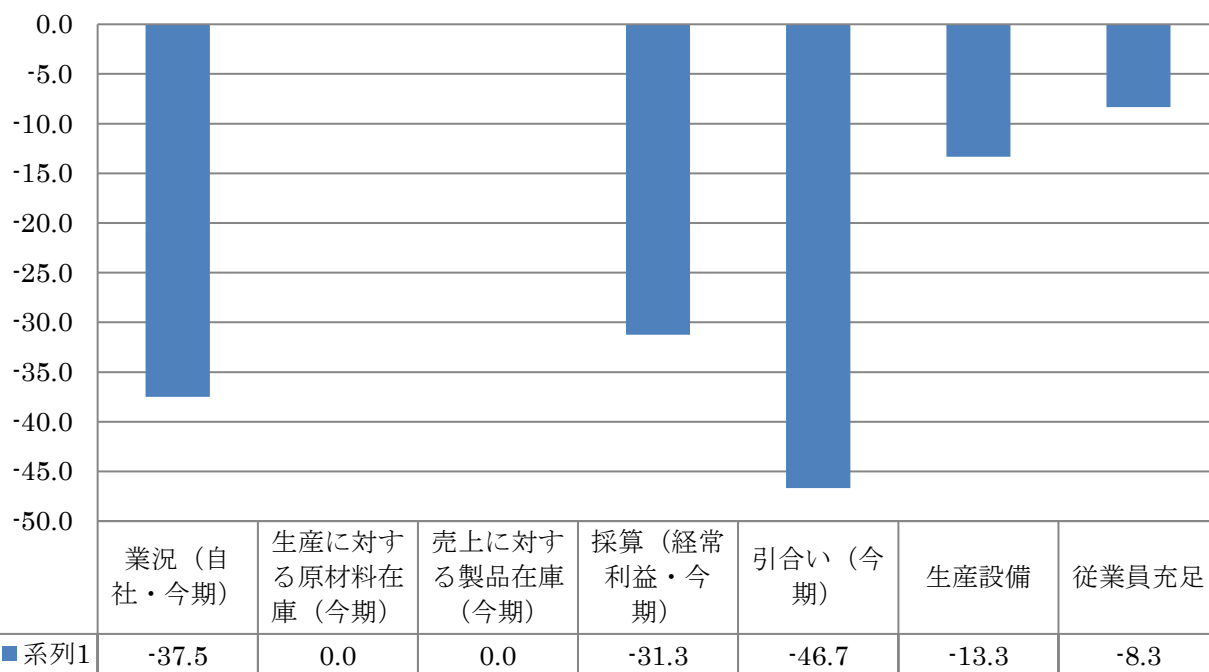
製造業



	売上額	売上単価	加工数量	資金繰り	輸出額	仕入単価	原材料在庫	製品在庫	採算	従業員	外部人材	業況	設備操業率	引合い	受注残
■ 前年同期比	-31.3	-25.0	-18.8	-25.0	-12.5	57.1	-28.6	-23.1	-25.0	-14.3	-9.1	-37.5	-31.3	-26.7	-18.8
■ 前期比	-50.0	-12.5	-43.8	-31.3	-12.5	71.4	-21.4	-14.3	-43.8	-7.1	0.0	-46.7	-31.3	-20.0	-12.5
■ 来期の見通し	-37.5	-31.3	-37.5	-37.5	-12.5	71.4	-14.3	-7.1	-31.3	0.0	0.0	-43.8	-18.8	-28.6	-18.8

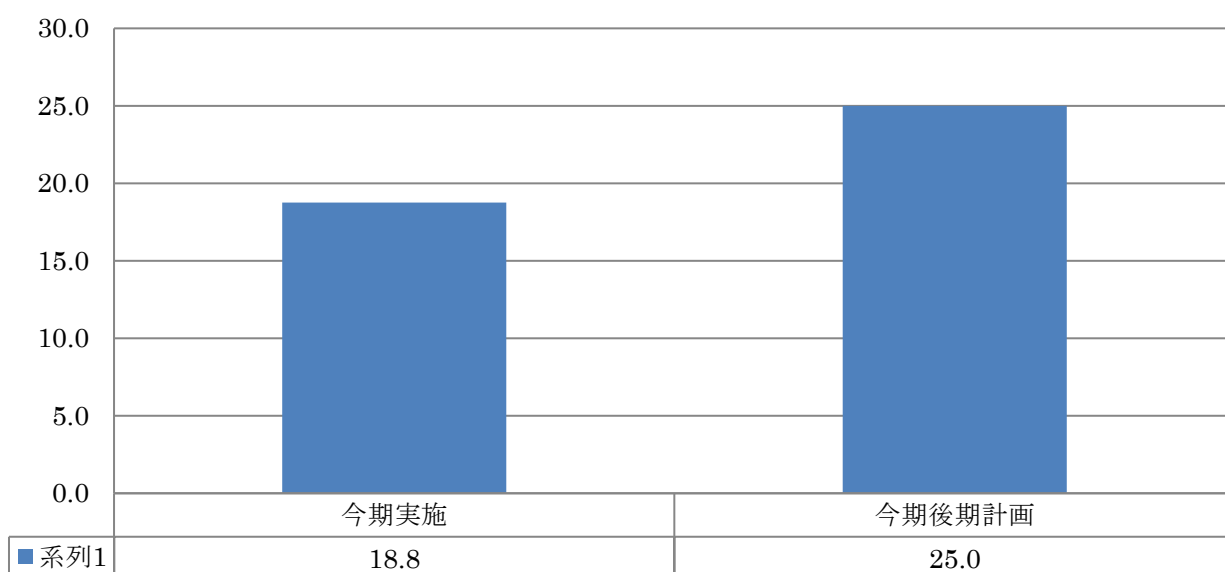
全ての項目において大幅なマイナス基調が続いている。特に、仕入単価の上昇が大きく影響している。

自社の状況（製造業）



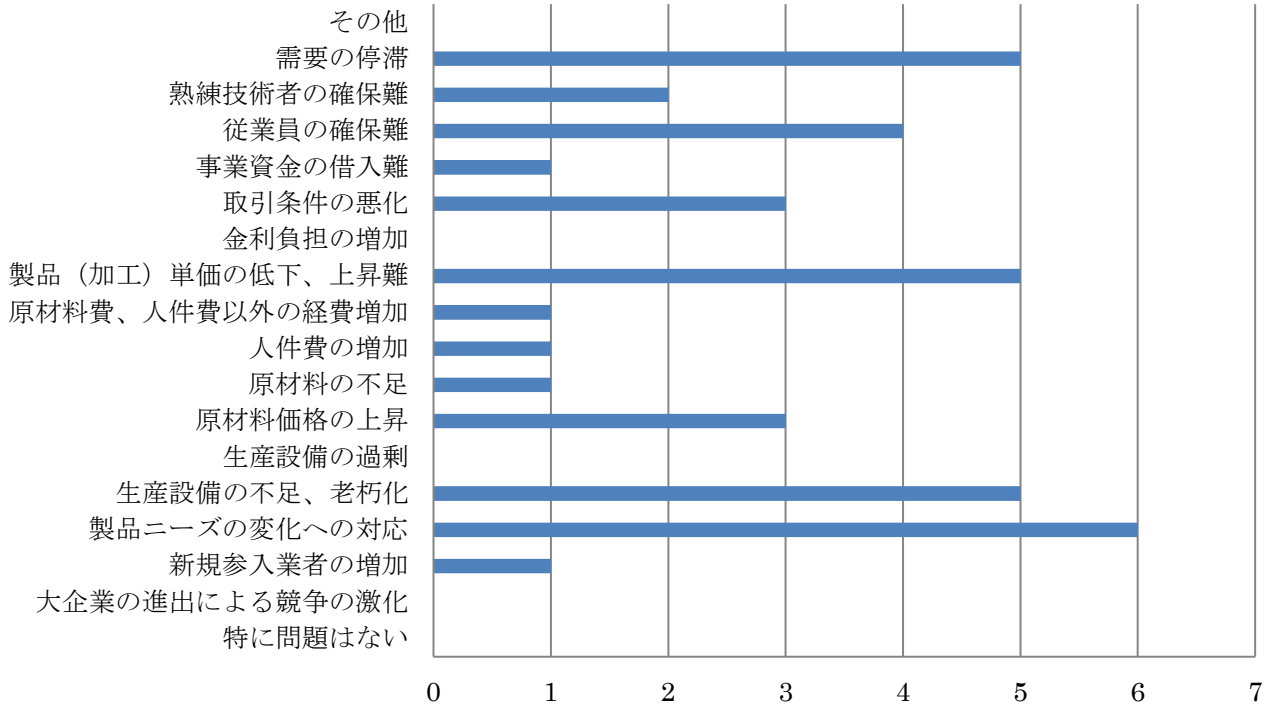
前回の調査と比較し、ほとんどの項目でマイナス幅が大きくなっており、厳しい状況が続いている。

設備投資実施率（製造業）



業況が厳しい中、今期設備投資した事業者の割合は微増しており、後期に設備投資を計画している事業所は増えている。

経営上の問題（製造業）



経営上の問題点の第1位は「製品ニーズの変化への対応」で、第2位は「需要の停滞」、「製品単価の低下」、「生産設備の不足、老朽化」が同率である。

⑤ 卸売業

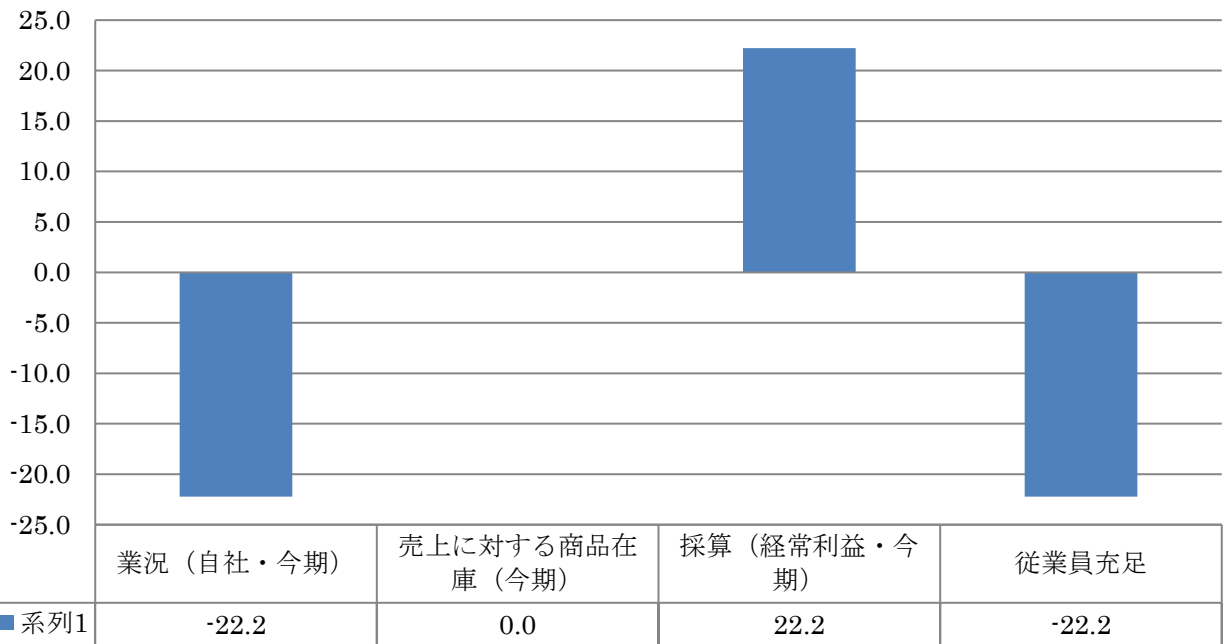
卸売業



	売上額	客単価	客数	資金繰り	商品仕入単価	商品仕入額	商品在庫数量	採算	従業員	外部人材	業況
■ 前年同期比	0.0	11.1	-11.1	-11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
■ 前期比	-22.2	0.0	-22.2	-11.1	11.1	10.0	-22.2	0.0	0.0	0.0	-22.2
■ 来期の見通し	-11.1	0.0	-11.1	-11.1	11.1	0.0	11.1	-11.1	0.0	0.0	-33.3

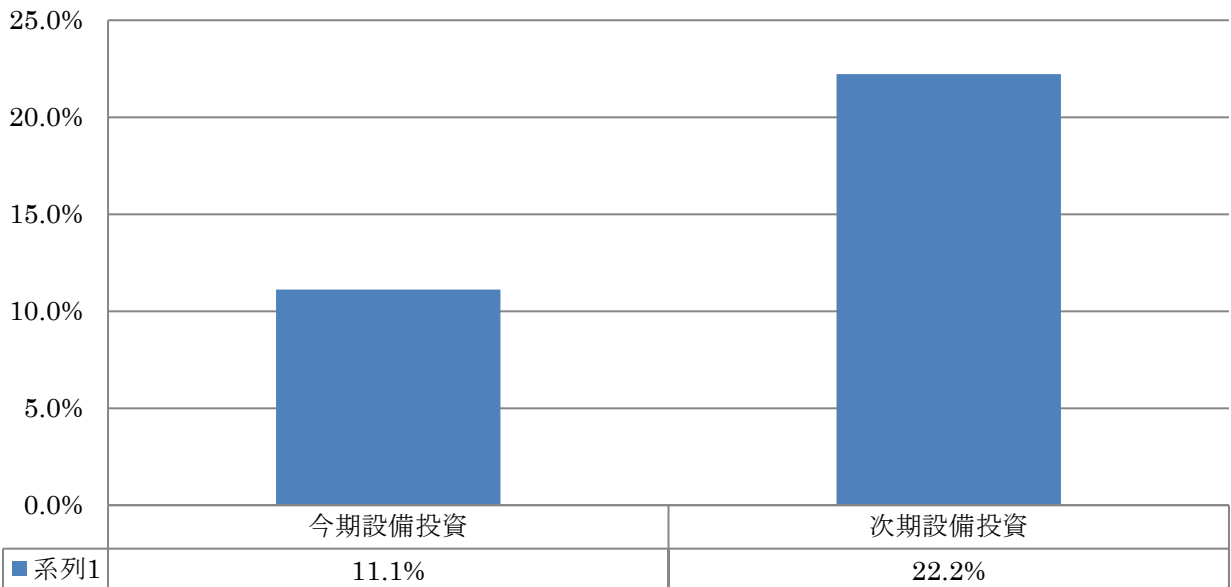
前期との比較から、売上はプラス幅の減少。客単価は下がっているものの、客数のマイナス幅は改善されている。資金繰りはマイナス幅が横ばいで推移している。

自社の状況（卸売業）



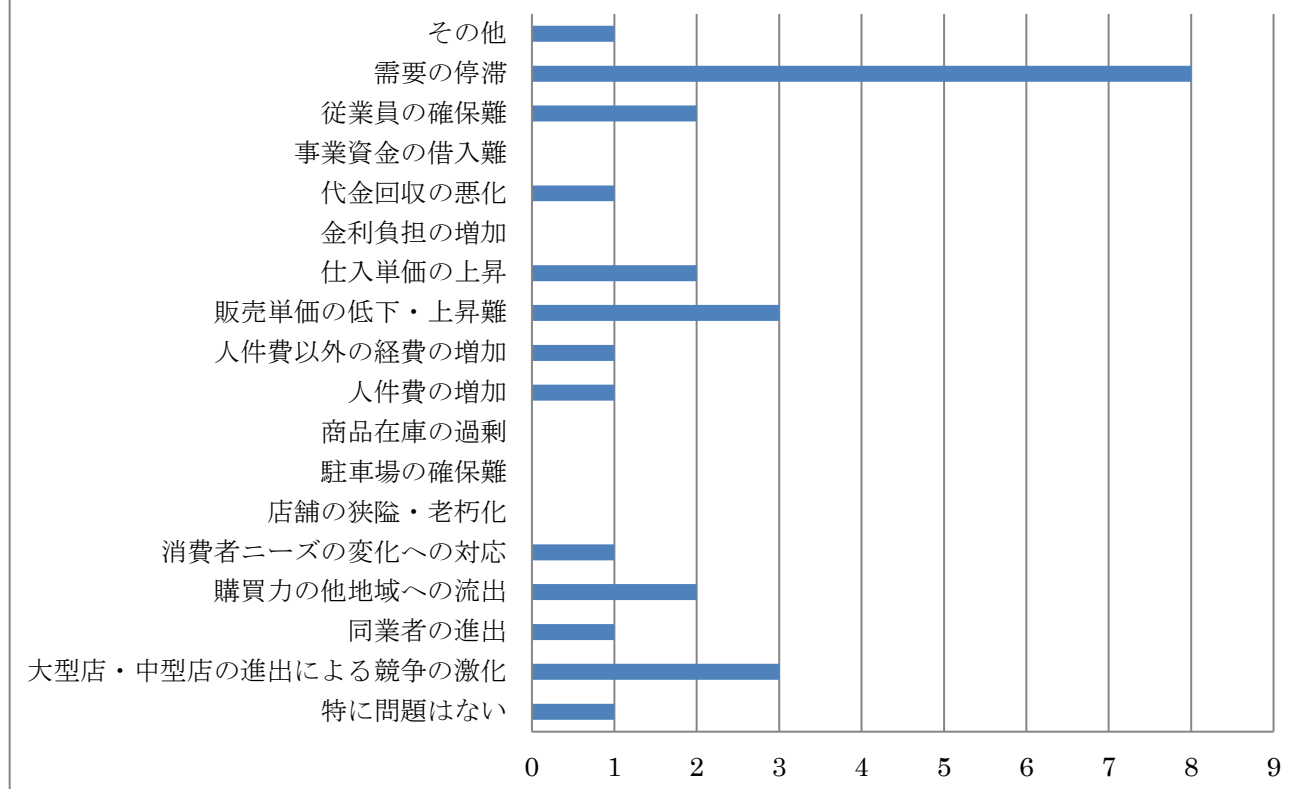
前回調査から業況、採算ともは改善傾向にある。従業員充足はマイナスに転じた。

設備投資実施率（卸売業）



前回の調査と比較し、今期設備投資と次期設備投資の割合は横ばいで推移している。

経営上の問題（卸売業）



経営上の問題点の第1位は「需要の停滞」、第2位は「販売単価の低下」「大型店・中型店の進出による競争の激化」が続く。

4. 業況判断の背景について感じていること

（小売業）

- ・増税後の消費の冷え込み お客様が低価格のものを求められる。
- ・キャッシュレス還元を期待しているが、いまのところあまり反応はない。
- ・販売額等に大きな変化はないが、売掛残の増大に伴って借入金も膨らんでいる。
- ・事業主の体調面に不安がある。それ以外は低調ながら安定している。
- ・新事業として飲食店を開店し会社として全てにおいて上昇している。オープンして6カ月であるが、仕入価格の上昇、上下が頻繁にあり困っている。大型店チェーン店にある価格低下があり、巻き込まれないように様々なサービスに対応している。
- ・ドラッグストアの出店過多。安売り量販店への顧客流出。

（サービス業）

- ・作業効率を上げていくのが課題であるが、なかなか難しい。
- ・利用者ニーズへの対応どのくらいまで必要か。
- ・キャッシュレス決済が目に見えて増加した。記帳入力の際に注意しなければならず手間が増えそうである。

(建設業)

- ・前々期と比べて前期が好転し今期も引き続き同じレベルで動いている。消費税増税も8%の時のような落ち込みないように思えるが、来期になってみないとわからない。
- ・住宅様式の変化により本業であった左官業の仕事がほとんどなくなってきている。
- ・県発注工事が激減している。これまでの人手不足に対応して外国人実習生の受け入れを予定しているので先行きが不安定である。
- ・他県では活発にあるようだが、県内での引き合いが急に無くなった。公共工事もほとんどない。
- ・仕事を増やしたくても人手が足りない。下請が多いので安定しているが公共工事が少なく元請が伸びていない。
- ・今期良好であっても来期がどうなるかが不明であり、不安を感じる。災害などの突発的な事や税金なども心配な要因である。

(製造業)

- ・売上が微減傾向ながら、販路別の売上比率の変化や自社生産品よりも外部生産委託品の比率が上がり社内での在庫品減少、資材回転率向上、利益率の高い製品の売上比率が高くなって利益率向上に繋がっているものの引き続いてBtoCの強化、既存販路の営業強化を推し進める。
- ・消費税増税の消費マインドへの低下を少し感じられるが、その結果が今後ゆっくりと影響を及ぼしそうである。
- ・仕事を増やしても人手が足りず昔ながらの作業のため若い人や熟練の人材を確保しにくい。
- ・中国経済の下振れや消費税などよくないニュースを聞くが、国内向け家電製品のハーネス加工分野では安定した受注が続いており3カ月先も悪化する気配はない。

(卸売業)

- ・米国と中国の貿易交渉の行方によって景気上昇または後退か業況判断が不透明。
- ・酒類に関しては2年前に国税局の指導の下、安売店（特にドラッグストア、スーパー等）の価格チェックをし、極端な安売りを是正するとの事であったが、2年経過した今も是正されていない。それどころか進捗状況も不透明なままである。我々の業界は死活状況が続いている。
- ・昨期に利益目標を達成したが、今期はそれほどでもない。
- ・消費税増税や税務調査など販売活動以外で労力を使ってしまうている。業況は昨年までが良かった。
- ・卸先が主に海外取引を行っているため当社の売上也海外情勢に左右される。今は厳しい現況であり、ニュースから目が離せない。トラックを購入しようと思っているが、この先どうなるかわからない。